

## 別紙

- 別紙 1. 薬学教育者ワークショップ検討小委員会議事録
  - ・ 第 1 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 2 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 3 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 4 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 5 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 6 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 7 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 8 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 9 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 10 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 11 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 12 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 13 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 14 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 15 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 16 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  - ・ 第 17 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会
  
- 別紙 2. 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのモデルプログラムにおける 2 日間のスケジュール
  
- 別紙 3. 「World Cafe」のセッションの説明用の原稿とスライド
  
- 別紙 4. カリキュラムプランニングのセッションの説明用の原稿とスライド
  - ・ 別紙 4-1 : 目標
  - ・ 別紙 4-2 : 評価
  - ・ 別紙 4-3 : 方略
  
- 別紙 5. 「手法」のセッションの説明用の原稿とスライド
  
- 別紙 6. 平成 28 年度開催「認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ」一覧
  
- 別紙 7. 平成 29 年度開催「認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ」一覧
  
- 別紙 8. 平成 30 年度開催「認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ」一覧

- 別紙 9. 薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップのモデルプログラム  
におけるスケジュール
  - ・別紙 9-1 : 1 日コース
  - ・別紙 9-2 : 半日コース
  
- 別紙 10. 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおける配布資料

## 別紙1. 薬学教育者ワークショップ検討小委員会議事（第1回～第17回）

### 第1回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名称：第1回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日時：平成27年1月16日（金）17：00～20：00

場所：薬学教育協議会

〒150-0002 東京都渋谷区 2-12-15 日本薬学会長井記念館内

出席者：須田晃治（薬学教育協議会）、小佐野博史（帝京大学）、大津史子（名城大学）、

佐藤英治（福山大学）、安原智久（摂南大学）、平田收正（大阪大学）

欠席者：河野武幸（摂南大学）、村岡未彩（大阪大学）

#### 【議題】

1. 薬学教育者ワークショップ検討小委員会設置の経緯
  - ・薬学教育者ワークショップ実施委員会（資料1：厚労省科研「総合研究報告書」・資料2）
  - ・文科省課題解決型高度医療人材養成プログラム（資料3）
2. 薬学教育者ワークショップ検討小委員会での検討事項
  - ・薬学教育者ワークショップのプログラム改訂
  - ・薬学教育者アドバンスワークショップのモデル・プログラム提案
3. 薬学教育者ワークショップのプログラム改訂
  - ・モデル・コアカリキュラムの改訂に対応したプログラムの必要性
  - ・変更案作成（資料4）
  - ・トライアルの実施と定着に向けたプロセス
4. 薬学教育者アドバンスワークショップのモデル・プログラム提案
  - ・モデル・プログラムの作成
  - ・普及に向けたプロセス
5. その他

### 第2回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名称：第2回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日時：平成27年2月4日（水）17：00～20：00

場所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者:須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、平田收正(大阪大学)  
欠席者:村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

0. 本委員会での検討課題(資料1)
1. 薬学教育者ワークショップのプログラムの改訂
  - (1) スケジュールの精査(資料2・資料3)
    - ・オリエンテーション
    - ・コンセンサスゲーム(アイスブレイキング)
    - ・KJ法・問題点への対応
    - ・カリキュラムプランニング(目標・方略・評価)
    - ・講演:医療人教育改革
    - ・講演:WSの歩みと薬学教育改革
    - ・その他
  - (2) OBEに対応したプログラム改訂(資料4・資料5)
  - (3) 具体的な改訂内容の検討(資料6・資料7)
2. タスクフォーススキルアップ集会の開催
  - ・実施方法:全国→地区単位(5W1H+経費)
3. 薬学教育者アドバンスワークショップのモデル・プログラム提案
  - ・これまでの事例(資料3・資料8)
4. その他

第3回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名称:第3回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日時:平成27年2月26日(木)16:00~18:00

場所:大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者:須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、平田收正(大阪大学)  
欠席者:村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. これまでの議論(資料1)

2. 薬学教育者WSプログラムの改訂案の作成(資料1~4)
3. タスクフォーススキルアップ集会の開催(資料1)
4. 薬学教育者アドバンスワークショップのモデル・プログラム提案(資料5)
5. 今後の進め方
6. その他

#### 第4回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第4回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成27年4月15日(水) 18:00~20:00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、大津史子(名城大学)、佐藤英治(福山大学)、  
河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：小佐野博史(帝京大学)、

#### 【議題】

1. これまでの議論(資料1)
2. 薬学教育者WSプログラムの改訂案の作成(資料1)
3. 東海地区でのタスクフォーススキルアップ集会の開催(資料2)
4. 薬学教育者アドバンスワークショップのモデル・プログラム提案
5. 日薬、日病薬からの委員推薦
6. 今後の進め方
7. その他

#### 第5回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第5回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成27年6月16日(火) 17:00~19:30

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. 東海地区タスクフォーススキルアップ研修会の開催（資料1、2）
2. 関東地区タスクフォーススキルアップ研修会について
3. 指導薬剤師対象のアドバンスワークショップのモデルプログラムについて（資料3）
4. 今後の薬学教育者ワークショップのモデルプログラムの提案・試行・実施に向けた進め方について（資料4）
5. その他

第6回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第6回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成27年7月27日（月）17：00～20：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. 関東地区タスクフォーススキルアップ研修会について（資料1～4）
2. 指導薬剤師対象のアドバンスワークショップのモデルプログラムについて（資料5）
3. 今後の薬学教育者ワークショップのモデルプログラムの提案・試行・実施に向けた進め方について（資料6）
4. その他

第7回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第7回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成27年8月25日（火）15：00～18：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)

欠席者：小佐野博史(帝京大学)、村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. 薬学教育者ワークショップの改定プログラムについて (資料1～7)
2. 指導薬剤師対象のアドバンストワークショップのモデルプログラムについて (資料8)
3. 今後の薬学教育者ワークショップのモデルプログラムの提案・試行・実施に向けた進め方について (資料9)
4. その他

第8回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名称：第8回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日時：平成27年10月1日(木) 17:00～19:30

場所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、

佐藤英治(福山大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)

平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：河野武幸(摂南大学)

**【議題】**

1. 今後の改定プログラムによる薬学教育者ワークショップの実施にむけた進め方について (資料1)
2. 全国薬学教育者アドバンストワークショップの開催について (資料2)
3. 薬学教育者ワークショップ改定プログラム(案)について (資料3)
4. 薬学教育者ワークショップ改定プログラムにおけるカリキュラムプランニングのプレゼンテーション資料について (資料4～6)
5. 関東地区におけるタスクフォーススキルアップ研修会でのフィードバックについて (資料7)
6. 各地区で実施するタスクフォーススキルアップ研究会のモデルプログラムについて (資料8)
7. 各地区で実施する指導薬剤師対象のアドバンストワークショップのモデルプログラム(案)について (資料9)
8. その他

第9回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名称：第9回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 27 年 12 月 10 日（木）13：00～19:30

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. 薬剤師会に対する「改訂モデル・コアカリキュラムに対応した薬学教育者ワークショップのプログラムogramの変更と今後の各地区での当該ワークショップの実施」に関する説明について（資料1-1～1-6）
2. 今後の改訂プログラムによる薬学教育者ワークショップの実施に向けた進め方について（資料2）  
について
3. 全国アドバンストワークショップについて（資料3-1～3-3）
4. 近畿地区タスクフォーススキルアップ集会について（資料4）
5. プレゼン資料、配布資料等の準備について（資料5）
6. 今後のスケジュールについて（資料6）
7. その他

第 10 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 10 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 27 年 12 月 26 日（土）17:30～19:30

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：大津史子(名城大学)、佐藤英治(福山大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、河野武幸(摂南大学)

**【議題】**

1. 近畿地区タスクフォーススキルアップ研修会について（資料1～3）
2. 全国アドバンストワークショップについて（資料4～6）
3. プレゼン資料、配布資料等の準備について（資料7）
4. 今後のスケジュールについて（日程確認）（資料8）
5. その他



## 第 11 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 11 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 1 月 16 日（土）17：30～22：00

平成 28 年 1 月 17 日（日）7：00～9：00

場 所：帝京大学薬学部

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

### 【議題】

1. 全国アドバンストワークショップについて
2. スキルアップ研修会でのプレゼン資料・配布資料について
3. 薬学教育者ワークショップでのプレゼン資料・配布資料について
4. 今後の進め方について

## 第 12 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 12 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 1 月 29 日（金）17：30～20：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、平田收正(大阪大学)、  
村岡未彩(大阪大学)

欠席者：西野隆雄(大阪大学)

### 【議題】

1. 全国薬学教育者アドバンストワークショップの振り返り（資料 1）
2. 近畿地区薬学教育者ワークショップ（3 月 5-6 日@常翔学園）プログラムについて（資料 2）
3. 近畿地区薬学教育者ワークショッププレゼンについて（資料 3）
4. 今後の進め方について（資料 4）
5. その他

## 第 13 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 13 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 3 月 31 日（木）13：00～18：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、大津史子(名城大学)、  
佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

### 【議題】

#### 1. 第 81 回近畿地区薬学教育者ワークショップ（トライアル）の振り返りについて

##### ① プログラム（資料 1）

:時間配分(プレゼン、P・S 会場)

##### ② プレゼン内容（資料 2）

:オリエンテーション、ワールドカフェ、KJ 法、目標、評価、方略、手法、問題点への対応、  
講演(医療人教育改革、薬学教育改革)、その他

##### ③ その他(P・S 会場での配布資料、運営等)（資料 3）

➡ プロダクト、参加者の感想・意見の検討(報告書から)（資料 4）

➡ タスクフォースからのフィードバックの検討（資料 5）

\*平成 28 年 4 月 10 日(日)にタスクフォースによる振り返り会を開催予定

#### 2. 今後の進め方

##### ① プレゼン、プログラム、運営マニュアル、配布物

- ・ 本日の検討後、最終案を決定
- ・ プレゼン収録（最終）
- ・ 各地区への配布（プレゼン DVD・読原稿、プログラム、運営マニュアル、P・S 会場配布物）

##### ② 医学教育改革講演の依頼

##### ③ 各地区でのタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及び薬学教育者ワークショップの実施と小委員会委員の派遣（資料 6・資料 7）

##### ④ その他

#### 3. その他

## 第 14 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 14 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 5 月 11～17 日（メール会議）

参 加：大津史子(名城大学)、佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、  
須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)、西野隆雄(大阪大学)、  
平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

**【議題】**

1. 各セッションのプレゼンテーションについて（資料 1～4）
2. ワークショップのスケジュールについて（資料 5～10）
3. 平成 28 年度のタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワー  
ク  
ショップ及びワークショップの開催状況及び今後の開催予定（資料 11）
4. その他

第 15 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 15 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 7 月 20 日（木）15：00～18:30

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：大津史子(名城大学)、佐藤英治(福山大学)、河野武幸(摂南大学)、安原智久(摂南大学)、  
西野隆雄(大阪大学)、平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：須田晃治(薬学教育協議会)、小佐野博史(帝京大学)

**【議題】**

(第 14 回はメール会議で各セッションのプレゼン資料・原稿の最終確認)

1. 平成 28 年度 9 月以降のタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及  
び  
ワークショップの担当者について
  - ・平成 28 年度 9 月以降のタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及  
びワークショップ及びワークショップの担当者（派遣タスクフォース）の決定（資料 1）
  - ・平成 29 年度の開催における薬学教育者ワークショップ検討小委員会委員の参加について
2. これまでのタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワークショ  
ップの振り返りとそれに基づく修正について
  - ・平成 28 年度のタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワー  
ク  
ショップ及びワークショップの開催状況及び今後の開催予定（資料 1）
  - ・第 81 回近畿地区ワークショップ（トライアル）の振り返り（安原先生）（資料 2）

- ・ 第 54 回九州山口地区ワークショップの振り返り（佐藤先生・佐藤先生）（資料 3）
  - ・ タスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップの振り返り（資料 4）
  - ・ 講演「医療人教育の改革」について
  - ・ 講演「ワークショップの歩みと薬学教育改革」について
3. 今後の薬学教育者ワークショップの運営について
- ・ 平成 29 年度以降の各地区での薬学教育者ワークショップの実施、タスクフォースの養成等について
  - ・ 今後の各地区でのアドバンストワークショップの企画・実施について
  - ・ 今後の薬学教育者ワークショップの運営体制について
4. 各セッションのプレゼン資料、読原稿の修正とDVD収録について
- ・ 2 の振り返りにおける議論を反映した修正
  - ・ 修正分でのDVDの収録
    - ：目標・評価・方略は本日（時間がない場合は目標・評価）
    - ：その他のセッションは大阪大学で（時間がない場合は方略は摂南大学で）
5. その他

#### 第 16 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 16 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 28 年 12 月 14 日（水）17：00～20：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：大津史子(名城大学)、佐藤英治(福山大学)、須田晃治(薬学教育協議会)、

安原智久(摂南大学)、西野隆雄(大阪大学)、平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：小佐野博史(帝京大学)、河野武幸(摂南大学)

#### 【議題】

1. 平成 28 年度タスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワークショップの開催について
  - ・ 平成 28 年度のタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワークショップの実施状況および参加状況の確認（資料 1）
2. これまでのタスクフォーススキルアップ研修会、アドバンストワークショップ及びワークショップの振り返りとそれに基づく修正について
  - ・ 各ワークショップおよび研修会の振り返り（資料 2～8）
3. 今後の薬学教育者ワークショップの運営について

- ・平成 29 年度以降の各地区での薬学教育者ワークショップの実施、タスクフォースの養成等について
  - ・今後の各地区でのアドバンスワークショップの企画・実施について
  - ・今後の薬学教育者ワークショップの運営体制について
  - ・その他
4. その他

#### 第 17 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

名 称：第 17 回薬学教育者ワークショップ検討小委員会

日 時：平成 29 年 5 月 9 日（火）15：00～20：00

場 所：大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

出席者：大津史子(名城大学)、河野武幸(摂南大学)、小佐野博史(帝京大学)、佐藤英治(福山大学)、  
西野隆雄(大阪大学)、平田收正(大阪大学)、村岡未彩(大阪大学)

欠席者：須田晃治(薬学教育協議会)、安原智久(摂南大学)

#### 【議題】

1. 各プレゼン及び原稿の修正について（資料 1・2）
2. プレ・ポストアンケートの修正について（資料 3・4）
3. 今後のアドバンスワークショップの運営について（資料 5）
4. その他

別紙2. 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップのモデルプログラムにおける2日間のスケジュール

第〇〇回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ  
(薬学教育者ワークショップ) in 〇〇

第1日：〇〇年〇月〇日(土) 9:00~20:00

- 08:20-08:50 参加者受付 (×××××)
- 09:00-09:20 P 開会式 開会の挨拶、ディレクター挨拶、参加者・タスクフォース自己紹介
- 09:20-09:45 P オリエンテーション「ワークショップとは」 (〇〇)
- 09:45-09:55 P 「理想の薬剤師像」 (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 09:55-10:45 P World Café
- 10:45-10:55 P 「薬学教育の問題点」 (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 10:55-11:55 S グループ討論
- 11:55-12:10 P 発表 (3分/グループ) と合同討議 (5分)
- 12:10-13:00 写真撮影：本部棟玄関  
♪ 昼食：各 S 会場
- 13:00-13:15 P 学習成果基盤型教育において求められる学習目標とは  
(タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 13:15-14:45 S 学習目標の作成
- 14:45-15:05 P 発表 (3分/グループ) と討議 (3分/グループ)
- 15:05-15:20 ♪ コーヒーブレイク (P会場の廊下)
- 15:20-15:50 P パフォーマンスを測る教育評価とは (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 15:50-17:50 S 教育評価法の作成
- 17:50-18:20 P 発表 (6分/グループ) と討議 (4分/グループ)
- 18:20-18:25 P 第1日目の評価 (アンケート)
- 18:30-20:00 情報交換会: 研修センター5F・会議室D (〇〇)

第2日：〇〇年〇月〇日(日) 9:00~18:00

- 09:00-09:05 P 第1日目の評価報告 (アンケート結果報告)
- 09:05-09:35 P 真に参加型と呼べる学習方略とは (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 09:35-11:05 S 学習方略の作成
- 11:05-11:45 P 発表 (6分/グループ) と討議 (5分/グループ)  
望ましい学習とは

- 11:45-11:55 P プロダクト修正
- 11:55-12:25 P 臨床現場での学習に有効な手法 (〇〇)
- 12:25-12:55 S グループ討論
- 12:55-13:40 ♪ 昼食：各 S 会場、プロダクトの展示 (研修センター2F・廊下)
- 13:40-13:50 P 問題点への対応 (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 13:50-14:50 S 問題点への対応の作成
- 14:50-15:20 P 発表 (4 分/グループ) と合同討議 (15 分)
- 15:20-15:30 P 問題解決のプロセス (タスクフォースによる説明) (〇〇)
- 15:30-15:40 P 総合ポストアンケート、第 2 日目の評価 (アンケート)
- 15:40-15:55 ♪ コーヒーブレイク (P 会場の廊下)  
その後、2P 会場 (ホール) へ移動
- 15:55-16:40 2P 講演「医療人教育の改革」(中島) 司会：〇〇
- 16:40-17:05 2P 講演「ワークショップの歩みと薬学教育改革」(〇〇)
- 17:05-17:15 2P 事務局担当者の紹介と謝辞 (〇〇)  
各 P 会場に再移動
- 17:20-17:45 P 総合プレ・ポストアンケート、第 2 日目評価アンケート結果報告 (〇〇)  
参加者感想発表
- 17:45-18:00 P 閉会式：修了証授与

### 別紙3. World Caféの説明の原稿とスライド

#### World Café (アイスブレイキング)

改定前のWSではIce breakとして砂漠への不時着を扱っていたが、年数が経つにつれ、既に内容を知った参加者が増えてきたこともあり、改定後のWSではworld caféを行うこととした。

world caféはアニータ・ブラウンとデイビット・アイザックスが始めた方法で、カフェのような雰囲気の中で、コーヒーを飲みながら多くの人と和気藹々と話すことで、創造性に富んだ対話が生まれ、ときに通常のかた苦しい会議ではでてこない「画期的な発想」が創発されるグループワークの一つの方法である。参加者は世界を旅する「旅人」になり、それぞれの国(テーブル)のカフェで出会った他の旅人と「おしゃべり」や「落書き」を楽しみ、また別の国に旅立つことになる。WSではコーヒーの提供はかなわないが、少しでもリラックスして参加してもらうために、これまで受け付け時に配布していたお茶をworld caféで配布することとした。

world caféではテーブルの移動を繰り返すことにより、たくさんの人の話を聞くことが可能となる。また、一つの話がテーブルをこえて伝播していくこともある。これは、ミツバチが花から花へ花粉を運ぶ様子に例えて他花受粉と呼ばれている。ミツバチが花粉をどんどん広げ、異なる遺伝子が出会い、新たな種が生まれるように、world caféでは新しい発想が生まれることが期待される。

world caféは4～5名のグループでテーマにそって「おしゃべり」をする。1回の「おしゃべり」をラウンドと言い、ラウンドごとにメンバーを入れ替えて行う。各テーブルで「テーブルマスター」を決め、テーブルマスターはワールドカフェを通して固定で、司会をする。本WSではテーブルマスターは運営側から指定することとし、第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会を、第2ラウンド以降では、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「第1ラウンド」で印象に残った話を1分で紹介した上で、旅人に自己紹介をしてもらい、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会することを依頼した。1回のラウンドは15分～20分で、ラウンドが終わると旅人は別のテーブルに移動する。移動の際には、できるだけ前のラウンドと違う旅人同士が集まるように心がけることが必要である。

world caféでは楽しみながら、各自が積極的に話すこと、そして他の旅人の話にも耳を傾けることが重要である。また、テーブルクロス代わりに模造紙に、気づきや感想、落書き等を書き込んでもらうことで、より他花受粉が活性化される。

本WSでは第1ラウンドのテーマを「大学生の時に一番印象に残ったことは何ですか?」とし、まずは、第1ラウンドのみ各自で絵に書いてから、それを説明しながら「おしゃべり」をしてもらうこととした。第2ラウンドのテーマは「今、力を入れている業務」、第3ラウンドのテーマは「あなたが描く理想の薬剤師像」とした。



## 別紙4-1. 目標の説明の原稿とスライド

### 学習成果基盤型教育における目標とは

学習のプロセスでは社会が「こういう人材を必要としている」というニーズや、学生が「このようなことを学びたい」という要求からくるニーズ、これらのニーズから様々な制約を考慮して目標を設定する。学習者はこの目標に向かって学習を進め、教育者・指導者は学習者をサポートする役割を担っている。学習者が目標に向かって学習する方法を教育学の分野では「方略」と呼ぶ。つまり、学習者は方略に従って目標に向かって学習を進めていくことになる。また、学習を進めていく中で、学習者がどの程度まで目標に到達できたかどうかを評価する必要もある。これら3つの「目標」、「方略」、「評価」カリキュラムの3要素と呼ばれている。カリキュラムとは、目標、方略、評価の3要素を明示しているもの、学習者がこれに従って学習しアウトカムに到達するもので、決して授業の時間割ではない。上記の学習のプロセスは、改定前のWSから変更なくカリキュラム作成の最初のセッションとなる目標のセッションで説明を行うこととした。

教育者は学習者のパフォーマンスを観察し、このようなパフォーマンスを示すのであれば、このような能力を有しているだろうと解釈し、評価を行う。学習者がパフォーマンスを示すためには、求められたパフォーマンスを示しうる条件、学習環境や指導者が必要となる。このような環境のデザインを学習方略と呼ぶ。このような理念の中行う教育を学習成果基盤型教育と呼ぶ。

学習成果基盤型教育におけるカリキュラム作成の流れは、まず最初に、社会が求める人材を養成するために、教育を終えたときに学生が修得していると期待される「能力」を設定し、「アウトカム」を定義し、このアウトカムから具体的なパフォーマンスである「学習目標」を考える。次に、学生がそのアウトカムに到達したかどうかを評価する方法と基準を定め、最後に、学生がパフォーマンスを実践できる学習環境（方略）を考える。

目標を設定することで、学習者が何を学んでその後自分が何をできるようになるのかを理解することができるようになり、その結果、学習者のモチベーションが刺激されるというメリットがある。また、薬学実務実習にあてはめると、病院・薬局の指導薬剤師、大学教員で目標を共有していれば、それぞれの場所で何を学習しているのかの情報を共有することができ、相互の理解が深まる。

学習成果基盤型教育における学習目標の特徴は、パフォーマンスとして表現するということである。例えば、「ハードルを華麗に飛び越す」というパフォーマンスは「歩幅とハードルの間隔の説明できる」「理想のフォームを説明できる」「垂直に50 cm飛べる」「水平に100 cm飛べる」「安定した着地ができる」「失敗しても再チャレンジする態度もある」等に分割することができる。しかし、これらをそれぞれ個々にクリアしたとしても、果たしてハードルを華麗に飛び越えることができるかどうかは不明である。重要なことは分割した個々ではなく、ハードルを華麗に飛び越えることができるかどうかである。つまり、目標は、細かく分割するのではなく、パフォーマンスとして表現することがふさわしい。

目標の設定ではまず最初に、教育を終えたときに学生が修得していることが期待される「能力」をニーズに基づいて設定する。ただ、この能力自体は目で見ることはできないため、その能力を可視化できるよ

うにするためにアウトカム（学習成果）を定義する。つまり、どういうことができればこの能力があると判断できるのかを明示するのである。ただし、このアウトカムは能力全体をカバーするため、範囲が非常に大きいため、このアウトカムを実践するために必要な具体的なパフォーマンスである「学習目標」を設定する。

薬学教育を終えたときに学生が修得していると期待される能力には薬物療法の実践能力、地域包括ケアへの参画能力、医療倫理に基づいた行動などがある。改定後のWSでは、このような能力からアウトカムを定義し、学習目標を設定することとした。

## 別紙4-2. 評価の説明の原稿とスライド

### パフォーマンスを測る教育評価とは

学習成果基盤型教育におけるカリキュラム作成では、最初に目標を作成し、次に、学生が目標に到達したかどうかを評価する方法と基準を定め、最後に、学生がパフォーマンスを実践できる学習環境（方略）を考える。

教育における評価とは、教育活動を効果的に遂行するために必要な情報を収集した後に、それを解析し、意思決定を行う作業と定義されている。つまり、学習者の学修成果を適切に測定した後に、その測定結果に価値判断をくだし、可否を決める、もしくは学習者に対して何らかのフィードバックを行うということである。

そのため、最初に行う測定が大変重要である。測定を行うにあたっては、いわゆる「5W1H」について十分に考えて測定を設計することが必要となる。

測定の目的は大きく分けて2つあり、例えば、入学や卒業に際して、学習の到達度が十分であるかどうか合否判定を行う、つまり最終的な学習成果に対する意思決定を行うことが目的となる評価と、フィードバックが目的の評価がある。先に出てきた合否判定を下すための意思決定は「総括的評価」、フィードバックを目的とする意思決定は「形成的評価」と呼ばれるものである。なお、総括的評価の結果は、正式な記録の一部として公的に保存されるが、形成的評価は勧告のみで正式な記録として残るわけではない。

次に、測定の対象となるのは、アウトカム、学習成果、学習目標の到達度である。学習者に求め、評価したいパフォーマンスレベルは学習の段階によって変わってくるため学習目標を評価する際にはパフォーマンスレベルに合わせて評価を行う。例えば、大学の事前学習では本物の環境ではないため、**shows how** のレベルしか求められず、実務実習では本物のようにできるかどうか、**does** のレベルのパフォーマンスを求めることになる。なお、後に詳しく述べるが、どのパフォーマンスレベルを評価するのかによって、評価方法を選ぶ必要がある。

批評家者と評価者について、批評家者は学習者のみならず、教員や指導薬剤師、管理者などがあり、評価者としては教員や指導薬剤師はもちろん、学習者も挙げられる。特に、学習者同士で評価をするピア評価や、自分で自分を振り返る自己評価は非常に教育効果が高いと言われている。実務実習のような、実際の現場では、市民や患者、他の医療スタッフに評価をされることもある。

評価を行う時期は評価の目的によって異なる。総括的評価はアウトカムに到達したかどうか、薬学部でいえば、あと国家試験さえ受かれば薬剤師として社会に排出してよいかどうかを意味しているので、卒業時に行う。これに対して形跡的評価は、随時、適切なタイミングで行う必要がある。

評価の方法については先ほども少し触れたが、どのパフォーマンスレベルを評価するのかによって、評価方法が異なる。例えば **knows** を評価するにはマークシート試験で代表される客観試験で十分である。一方、口頭試験や論述試験では、**knows** だけでなく **knows how** まで評価できる。実際に何かをさせて評価する実地試験では **shows how** まで評価することが可能である。**Does** の評価を行うには卒業論文に代表されるようなプロダクト評価、卒業論文発表のようなプレゼンテーション、学生の臨床現場などの本

物の環境下での振る舞いを観察して評価する観察記録などの評価方法が必要となる。上記のような評価方法は評価者が直接被評価者のパフォーマンスを観察して評価する直接評価となる。最も適応範囲の広い評価方法にポートフォリオがある。「紙ばさみ」を語源とし、行ったパフォーマンスの成果を、全て記録し、保管していく方法である。例えば、実習中に自分が担当した患者さんについて疾患について調べたこと、処方提案の内容や、他職種とのやりとりの記録などを保管し、評価者が最新のものを見れば、このパフォーマンスを示せるのだから、こういう能力をもっていそうだと評価ができる。また実習が始まった頃から終盤までを並べて見ると、その学生の成長過程やその時々の努力も評価することができる。なお、ポートフォリオは、パフォーマンスを被評価者自身が記録したものを元に間接的に評価する、間接評価と呼ばれる。自己評価と他者の評価には相関性があるとされており、更には自分自身を振り返ることによって整理ができ、学習効果の向上に非常に重要であると言われている。

改定前のWSで取り上げてきた評価は客観的かつ平等な試験のみであったが、改定後のWSでは現実には即した運不運のある課題を用いた評価方法を取り上げている。運不運のある課題を用いるには、評価者が責任ある主観で構成に判断することが重要となる。例えば、できるを4、できないを1とした4段階の評価表というのは未だによく見かけることがある。しかしこれだけでは、評価の観点・基準が不明確であり、学習者が改善すべき点が伝わらない。そのため、パフォーマンス評価を行う際にはパフォーマンスの質を段階的・多面的に評価するための評価基準を文章で表現したルーブリックがしばしば使われる。ルーブリックの縦の軸は学生が何を修得するのかを示す観点を示す。この観点を複数設定することにより、ルーブリックは多角的な評価をもたらすことが可能となる。本来は、アウトカムを多角的に評価するための観点を議論する必要があるが、WS中では学習目標を観点として作業を進めることとする。横軸はパフォーマンスの質の基準を示す。1を満たさないという0を含めて、3段階から5段階で作られる。ルーブリックを示すことによって、学習者にとって行動指針が明確となり、自ら目標に近づこうと自己評価と自己改善を繰り返すこととなる。

改定後のWSではこれまでのセッションで作成したアウトカム・学習目標の見直しを行った後、その中から最も重要であると考えられる学習目標のパフォーマンスレベルごとの評価計画を作成し、また、その中の **does** の評価で用いるルーブリックを作成することとした。なお、ルーブリック作成にあたっては、何が評価されて、何が評価されないかを明確にし、また評価の段階の変化が、単なる領域の分割や量的な差にとどまらず、パフォーマンスの変化となる必要がある。各段階での記述が学習者にとって目標になるような表現となることを心がけて作成することが重要である。

## 別紙4-3. 方略の説明の原稿とスライド

### 芯に参加型と呼ばれる学習方略とは

学習方略は英語で **learning strategies**、略して **LS** と言われている。学習者がどのように学ぶかを記したものであり、パフォーマンスを実践できる環境を準備し、アウトカム・学習目標の評価が可能な学習方法の選択と順序をデザインすることである。この、「パフォーマンスを実践する」ということと「評価が可能」であるということが重要となる。アウトカム、学習目標、評価が作成されていても、その学習目標、つまり具体的なパフォーマンスを実践できる環境を用意しなければ、学習者はパフォーマンスとして示すことはできない。また、教育者にとっても、学習者の能力を推測し難い。学習方略を考えることにより、学習方法の選択とその順序、さらに、その環境に必要な資源と予算を考えることになる。具体的には、どんな方法で、誰の助力で、どこで、何を用いて、何時間くらいかけて、いくらくらいかけて、行うのかということデザインするわけである。

まず、「どんな方法で」にあたる学習方法の種類について、学習方法は大きく分けて、「受動的学習法」と「能動的学習法」がある。受動的学習法には、最も馴染み深い「講義」の他、いわゆるポスターセッションに相当する「示説（じせつ）」等がある。一方、能動的学習法についてはカンファレンスやディベート、SGDや今やっているワークショップはもちろん、問題基盤型学習—PBLやチーム基盤型学習—TBLといったものも多く取り入れられている。また実習も能動型学習のひとつである。大学で行う実験が中心となった基礎実習はもちろん、医療面接などを行うロールプレイやシミュレーション、研究活動の中心となる卒業研究などがある。加えて、薬局・病院実習や、更に高度な臨床研修など臨床現場で行う実習もある。能動型学習において重要なものに読書をしたり、DVD学習をしたり、e-learningを行ったり、宿題に積極的に取り組むといった「自習」がある。このような自習は大変学習効果が高いと言われている。WSではこれらの各方法についての利点や欠点も紹介する。

次に誰の助力で、どこで、何を用いて、いくらくらいかけてにあたる学習資源について考える。学習資源は、人的資源と物的資源に大きく二つにわけられる。まず、人的資源、「誰の助力で」の部分については、教員のほか、薬剤師、他職種、患者、医療・創薬関係者などが考えられる。物的資源として、「どこで」に相当する場所については、学内の講義室、演習室、実習室のほか、病院や薬局などの学外施設が入る。「何を用いて」の媒体としては、日常的に用いる書籍、プリント、コンピューター、PowerPoint、インターネットなどのほか、実習では処方せんや薬なども利用可能なものとなる。以上のような人的・物的資源の活用には、予算が適正な価格であるということも重要な要素となる。

なお、学習方法、学習資源ともに、学習者に実際に行わせる学習目標に適したものを選択することが重要となる。

参加型の学習方略を考えるにあたって、「人は状況の中で学び方を理解する」ということを理解しておく必要がある。人は自分がすでに持っているパフォーマンスを外界に対して総合的に適用しながら、より高いパフォーマンスを自分で獲得していくと言われている。その過程で推論・吟味などの思考、いわゆる **critical thinking** や問題解決型学習につながっていくと言われている。

この状況的学習ではどのような学習内容が含まれるかということを中心とするのではなく、どのような

文脈を提供するか、つまりどのような物語を持った患者さんと触れ合っていくか、あるいはどのような物語を持っている薬剤師に指導を受けるか、ということに重要視する。また、状況的学習にもいろいろな段階があり、学習者の能力がまだまだ低い時期では、早期臨床体験のように見学に行っただけ何かをしてみるとというほんの少しの参加を行い、十分に実力が備わった段階では実践的な参加に至るようなものまである。学習者の能力に合わせて行うことが重要である。

改定WSでは、On the job training についても触れる。実務実習も含めて、臨床実習の大部分は on the job training によって成り立っていると言われている。アウトカムに到達する方法は大きく分けると、On the job training と Off the job training にわけることができる。実際の業務の経験に基づいて学ぶものが On the job training だと言われている。この方法は業務に必要な能力を幅広く修得できる一方で、その時に経験する症例に学習内容が依存してしまい、経験していない症例に関して学ぶことが難しいという欠点もある。それに対して Off the job training の方は、実際の業務から切り離しての学びであり、On the job training で経験する機会に恵まれなかった領域を伸ばすことが可能である。また、実際に出会う症例に依存しないため、施設によっては経験するのは難しいものでも、off the job を取り入れることで学習が可能となる。パフォーマンスレベルとの関係を見ると、knows の段階は通常は自習やレクチャー、集合講義、学習会への参加、学会への参加などによって知識を身につけていくため、基本的には off the job training で修得していくことが可能である。一方、knows how から does のレベルは、薬局や病棟、在宅などでの問診、指導、相談などに参加をしていくこと、チーム医療での業務を体験すること、自分が担当した患者さんに関する処方解析や疑義照会というような貴重な on the job training を経験することによって高めることが可能である。ここで注意したいのは、自身が直接かかわっていない患者さんに関する学習は、資料をもとにした学習にしかならないので、off the job training であるということである。また実践ではない off the job training では does のレベルに至ることはできないため、実践を求められる実務実習では避けるべきである。実習施設の状況や学生の能力にあわせて上手に off the job training を取り入れることが重要となる。

なお、方略は、求めるパフォーマンスレベルを評価できるものにする必要がある。例えば、パフォーマンスを評価したいという時に、Sows how の学習方略であるロールプレイやシミュレーションを繰り返しても、学習者が本物のようにできるかを評価することはできない。Does のレベルを評価するのであれば、本物のパフォーマンスを示せる場である臨床実習や卒業研究などを方略として採用していく必要がある。

改定後のWSの方略では、これまでのプロダクトの見直しを行った後、評価のセッションで作成したルーブリックを活用できる理想の学習環境を具体的に設定し、理想の文脈をシナリオとして表現するという作業と学習目標に向けた薬学部での6年間の学習のデザインの検討を行ってもらったこととした。

## 別紙5. 手法の説明の原稿とスライド

### 臨床現場での学修に有効な手法

改定前のWSで、参加者から実際の現場で実践できるような指導方法を知りたいという要望が多かったこともあり、改定後のWSでは臨床現場での学習に有効な手法というセッションを新たに設けた。特に、WSでは実習中に学生が実際に経験することを多く考えていることから、経験からより効果的に学ぶ手法を2つ紹介することとした。

経験学習のモデルとしてよく知られているのがコルブの経験学習のサイクルである。コルブは、知識を学ぶことやトレーニングと区別して、実際の経験からより効果的に、より深く学ぶためのプロセスを経験学習サイクルとしてモデル化している。まず現場で実際に経験し、次に、省察といわれる、自らの振り返りと他者からのフィードバックを受けて振り返りを行い、そこから一般則とそれをどう使うかを学ぶ。それを試してみて、次の機会の経験に生かす。このサイクルを回すことによって、より深い学びに繋がる。すなわち、省察が不十分であれば、学びも不十分となり、次の経験に活かすことができない。省察を充実させることが、よりよい経験学習の要となる。

1つめに学習者に省察を促す、効果的なフィードバック法の1つである1分間指導法を紹介することとした。なお、実際の現場での状況をイメージしてもらうために、WSでは紹介前後で全ての参加者に、実務実習で実習生を指導している一場面をロールプレイしてもらうこととした。一般的に学習者が指導を受け入れやすく感じる状況というのは、まず自分の意見を聴いてもらえる、自分の気持ちを相手がかうけとめてくれると感じることが大切だと言われている。また、**positive feedback**を行うことで、さらに学習者の心が開くと言われている。PNPと言われるように、まず、良かった点を伝え、次にしっかりと誤りを正し、最後はさらなる学習を励ますようなポジティブな言葉をかけると学習者が受け入れやすいと言われている。1分間指導法は短時間でできる効果的な指導法のひとつで、名称もいくつかあり、指導ステップも5段階の縮小版もあるが、WSでは6段階の方法を紹介することとした。ステップ1ではまず学習者の考えを聞く。ステップ2では、学習者がどのようにしてその考えに至ったのかその根拠を聞く。ステップ3で一般論を示す。ステップ4ではできていた部分をポジティブに示す。その後、ステップ5で誤りをしっかりと正す。最後にステップ6で次の経験に向けたさらなる学習をポジティブな言葉で勧める。この説明後、普段から実際の現場でも気軽に導入しやすいように、名刺サイズの6ステップを示したカードを配布し、再度紹介前と同様の場面設定でのロールプレイを行った。このように効果的に指導を行うことで、省察が充実し、経験学習のサイクルがより深くなり、学習者の大きな成長につながる事が期待できる。

2つ目には、学習者自身が経験を振り返り、省察を行う手法を紹介することとした。WSでは薬学教育の中での目標、評価、方略を考えてもらうが、その中でほとんどのグループでも学習者の姿勢や態度について言及される。姿勢・態度を引き出すきっかけとして「出会い」がある。ロールモデルとの出会いや、衝撃的な体験との「出会い」というのはとても貴重なものである。実務実習中に衝撃的な出来事に出会った場合の省察は非常に有効な機会となる。そのための手法として教育的SEA (significant event analysis)がある。臨床の現場での、患者さんへの対応や医療行為、行動において、「考えることに意義がある」と思ったあらゆる出来事が教育的SEAの対象である有意事象となる。特に、「すごく良かった」、「ものす

ごく悩んだ」といった感情が動く出来事には、紙の上での教育では難しい、姿勢、態度を引き出すのに適した題材が含まれていることが多い。SEA では、まず SEA シートに自分が経験した有意事象を書き出し、整理する。SEA シートの各枠組みに入る言葉は状況によって変わるが、本WSでは1つの例を示す。まず、何が起きたのかを比較的簡潔に記述する。次に、その時の感情、最初に考えたことを書く。その後、うまくいったこととうまくいかなかったことを書く。うまくいかなかったことが題材になることが多いが、次の経験に活かすためにもううまくいったことも書くようにする。次に、なぜそうなったのか、自分で思いつく原因を記述する。最後に、この出来事から何を学んだのか、次はどうするのかを記述する。この時に記述するのが難しい項目もがあれば空白にしておくことも可能である。WSでは実際に参加者がこれまで業務中で心動かされた出来事について

SEA シートに記入してもらい、話し合ってもらおうこととした。SEA を行う際には、SEA シートをもとに、学習者は自分が経験した有意事象を発表し、発表を聞く側は、批判的な態度ではなく、共感的な態度で受け止める。学習者の助けになりそうな経験があればその経験を話してその時どうしたか、どうなったかなどを共有する。SEA の成果は一つではなく、出来事や発表者、参加者によって異なってくる。「自分の心が整理でき、みんなに共感してもらって心が落ち着いた」という成果が得られる場合も、「みんなにアドバイスをもらって解決した」という成果が得られる場合もいろいろな場合があることを前提にしておく必要がある。

本WSでは上記2つの手法を紹介したが、これらはそれぞれの状況に合わせて改変して用いることも可能であり、またこれらの手法以外にも効果的な手法は多くある。このような手法を紹介することで、参加者がより有効な学習を促せることを期待する。



## 別紙 6. 平成 28 年度開催の認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ

平成28年度 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ) 開催一覧

ワークショップコード	ワークショップ名称	開催日	会場名	担当学機関	お問い合わせ先
1	北海道 01 第3北海道認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成28年11月25日(土)・26日(日)	北海道薬科大学 当麻キャンパス	講師: 薬学教育者北海道協議会事務局	〒720-8631 北海道札幌市豊平区豊平1-17 北海道薬科大学内 薬学実務実習指導部 担当: 田中 昭彦 TEL 011-871-6344
2	東北 01 第43東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成28年12月18日(土)・19日(日)	岩手県立薬学専門学校	岩手県薬剤師会 事務局	〒020-8376 岩手県小岩井市豊田町3-14 12号 岩手県薬剤師会 TEL 019-229-2322
3	東北 02 第44東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成28年12月18日(土)・19日(日)	秋田県総合医療センター	秋田県薬剤師会 事務局	〒010-8372 秋田県秋田市大森町6-6 秋田県薬剤師会 TEL 018-838-2335
4	関東 03 第4東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成28年12月11日(土)・12日(日)	茨城県薬剤師会館	茨城県薬剤師会 事務局	〒310-8126 茨城県水戸市大田2-13-24 茨城県薬剤師会 TEL 029-259-1182
5	関東 01 第43関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(茨城県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	信託大学薬学センター	講師: 薬学教育者協議会 担当: 田中 昭彦	〒310-8126 茨城県水戸市大田2-13-24 茨城県薬剤師会 TEL 029-259-1182
6	中部 01 第18中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	北沢大学薬学センター	北沢大学、福井県薬剤師会、福井県薬剤師会	〒250-8101 福井県敦賀市川原町4-3 北沢大学薬学センター内 福井県薬剤師会 TEL 076-229-8231
7	関東 01 第18中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月18日(日)・19日(月)	愛知県立大学	講師: 薬学教育者協議会 担当: 田中 昭彦	〒466-8601 愛知県名古屋市東区大塚 愛知県薬剤師会 TEL 052-833-1111
8	関東 02 第19中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	岐阜県立大学	(一社)岐阜県薬剤師会、岐阜県薬剤師会、岐阜県薬剤師会	〒500-8501 岐阜県岐阜市大田町 岐阜県薬剤師会 TEL 058-241-1111
9	関東 03 第20中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	金沢学院大学	講師: 薬学教育者協議会 担当: 田中 昭彦	〒950-8585 石川県金沢市大野町 石川県薬剤師会 TEL 076-821-1111
10	中部 04 第18中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	岐阜学院大学	(一社)岐阜県薬剤師会、岐阜県薬剤師会、岐阜県薬剤師会	〒500-8501 岐阜県岐阜市大田町 岐阜県薬剤師会 TEL 058-241-1111
11	中部 05 第19中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月19日(日)・20日(月)	静岡国立大学	(一社)静岡県薬剤師会、静岡県薬剤師会、静岡県薬剤師会	〒420-8501 静岡県静岡市東区藤原 静岡県薬剤師会 TEL 054-833-1111
12	中部 01 第20中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	立命館大学	滋賀県薬剤師会、滋賀県薬剤師会、滋賀県薬剤師会	〒480-0019 大津市中央区針原1-3-2 滋賀県薬剤師会 滋賀県薬剤師会 TEL 0575-8610-1428
13	中部 02 第18中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月13日(土)・14日(日)	近畿大学	京都府薬剤師会、京都府薬剤師会、京都府薬剤師会	〒600-8019 大津市中央区針原1-3-2 滋賀県薬剤師会 滋賀県薬剤師会 TEL 0575-8610-1428
14	中部 03 第19中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月23日(土)・24日(日)	神戸学院大学	兵庫県薬剤師会、兵庫県薬剤師会、兵庫県薬剤師会	〒640-0019 大津市中央区針原1-3-2 滋賀県薬剤師会 滋賀県薬剤師会 TEL 0575-8610-1428
15	中部 04 第20中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年12月11日(土)・12日(日)	大阪大学	大阪府薬剤師会、大阪府薬剤師会、大阪府薬剤師会	〒540-0019 大津市中央区針原1-3-2 滋賀県薬剤師会 滋賀県薬剤師会 TEL 0575-8610-1428
16	中部 05 第18中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年12月4日(土)・5日(日)	大阪大学	大阪府薬剤師会、大阪府薬剤師会、大阪府薬剤師会	〒540-0019 大津市中央区針原1-3-2 滋賀県薬剤師会 滋賀県薬剤師会 TEL 0575-8610-1428
17	中部 06 第47中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月8日(日)・9日(月)	徳島大学	徳島大学	〒770-8501 徳島県徳島市大塚町 徳島県薬剤師会 TEL 087-821-1111
18	中部 07 第48中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年12月11日(土)・12日(日)	徳島大学	徳島大学	〒770-8501 徳島県徳島市大塚町 徳島県薬剤師会 TEL 087-821-1111
19	九州 01 第14九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月17日(日)・18日(月)	福岡大学薬学部	福岡県薬剤師会、福岡県薬剤師会	〒815-8501 福岡県福岡市東区 福岡県薬剤師会 TEL 092-833-1111
20	九州 02 第15九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月2日(土)・3日(日)	長崎大学薬学部	長崎県薬剤師会、長崎県薬剤師会	〒850-8501 長崎県長崎市 長崎県薬剤師会 TEL 095-833-1111
21	九州 03 第16九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(愛知県薬剤師会)	平成28年11月16日(土)・17日(日)	熊本県薬剤師会	熊本県薬剤師会、熊本県薬剤師会	〒960-8501 熊本県熊本市東区 熊本県薬剤師会 TEL 096-833-1111

## 別紙 7. 平成 29 年度開催の認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ

平成29年度 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ) 開催一覧

ワークショップ 番号	ワークショップ名称	開催日	会場名	担当/協賛	お問い合わせ先
1	北海道①	第31回実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年6月10日(金)11日(土)	(会場提供)〇〇	〒002-8581 札幌市東区南一条4丁目4-10 北海道薬剤師会本部 〒001-8513 札幌市中央区南一条西五丁目6番地4 札幌薬剤師会
2	北海道 ②	第32回実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月21日(土)22日(日)	北海道立大学 旭川キャンパス	〒087-8501 北海道旭川市旭川5丁目5-17 北海道薬剤師会 〒080-0802 旭川市旭川2丁目1-1 旭川薬剤師会
3	札幌 ①	第33回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年5月10日(金)11日(土)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会 札幌薬剤師会
4	札幌 ②	第34回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年6月8日(土)9日(日)	古川大薬学棟	〒060-0801 札幌市中央区南一条西五丁目6番地4 古川大薬学棟 札幌薬剤師会
5	札幌 ③	第35回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月10日(金)11日(土)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
6	札幌 ④	第36回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月20日(土)21日(日)	東北理科大学	〒981-8588 仙台市青葉区南五丁目1-1 東北理科大学 薬学教育センター
7	札幌 ⑤	第37回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年9月17日(土)18日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
8	札幌 ⑥	第38回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月19日(土)20日(日)	日本大学札幌	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 日本大学札幌 札幌薬剤師会
9	札幌 ⑦	第39回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年9月17日(土)18日(日)	札幌医科大学	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 札幌医科大学 札幌薬剤師会
10	札幌 ⑧	第40回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年9月23日(土)24日(日)	日本医科大学	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 日本医科大学 札幌薬剤師会
11	札幌 ⑨	第41回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年11月17日(土)18日(日)	札幌医科大学	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 札幌医科大学 札幌薬剤師会
12	札幌 ⑩	第42回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年11月17日(土)18日(日)	札幌医科大学	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 札幌医科大学 札幌薬剤師会
13	北海道 ①	第31回実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(北海道)	平成29年7月11日(土)12日(日)	旭川大学(旭川キャンパス)	〒087-8501 北海道旭川市旭川5丁目5-17 北海道薬剤師会 旭川大学(旭川キャンパス) 旭川薬剤師会
14	札幌 ①	第32回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(札幌)	平成29年7月10日(土)11日(日)	札幌医科大学	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 札幌医科大学 札幌薬剤師会
15	札幌 ②	第33回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(札幌)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
16	札幌 ③	第34回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(札幌)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
17	札幌 ④	第35回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(札幌)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
18	札幌 ⑤	第36回札幌薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(札幌)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
19	道庁 ①	第37回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
20	道庁 ②	第38回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
21	道庁 ③	第39回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
22	道庁 ④	第40回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
23	道庁 ⑤	第41回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
24	道庁 ⑥	第42回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
25	道庁 ⑦	第43回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
26	道庁 ⑧	第44回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
27	道庁 ⑨	第45回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会
28	道庁 ⑩	第46回道庁薬剤師会主催実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(道庁)	平成29年7月10日(土)11日(日)	道庁第10会議室	〒060-0875 札幌市東区南一条3丁目2号 道庁第10会議室 札幌薬剤師会

別紙8. 平成30年度開催の認定実務実習指導薬剤師養成のための薬学教育者ワークショップ

平成30年度 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ) 開催一覧

ワークショップコード	ワークショップ名称	開催日	会場名	担当機関名	担当の名称等
1	北海道-01 27年度北海道認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年6月(土)・(日)2泊2日	旭川医科大学	旭川医科大学 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒070-8551 旭川市東旭川町西町5-1-1 旭川医科大学 薬学実務実習指導薬剤師養成センター 旭川 旭川医科大学 電話: 011-211-1134
2	東北-01 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年6月(土)・(日)2泊2日	高崎大学	高崎大学 薬学部	〒990-8585 仙台市青葉区 高崎大学 薬学部 仙台 高崎大学 電話: 022-254-1100
3	東北-02 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	山形県薬剤師会	山形県薬剤師会	〒980-2411 山形市青葉区1-1-15 山形県薬剤師会 電話: 023-222-7494
4	東北-03 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	仙台市薬剤師会	仙台市薬剤師会	〒980-0817 仙台市青葉区南2-1-7-5 仙台市薬剤師会 電話: 022-249-2159
5	東北-04 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	東北薬科大学	東北薬科大学 薬学部 薬学センター	〒980-1458 仙台市青葉区南4-4-4-1 東北薬科大学 薬学部 仙台 東北薬科大学 電話: 022-222-2877
6	東北-05 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	仙台市薬剤師会	仙台市薬剤師会	〒980-0817 仙台市青葉区南2-1-7-5 仙台市薬剤師会 電話: 022-249-2159
7	東北-06 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	岩手県薬剤師会	岩手県薬剤師会	〒990-2126 盛岡市山田町2-15-205 岩手県薬剤師会 電話: 019-222-2997
8	東北-07 27年度東北認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年11月(土)・(日)2泊2日	宮城県薬剤師会	宮城県薬剤師会	〒982-0802 仙台市青葉区南2-15-205 宮城県薬剤師会 電話: 019-222-2997
9	関東-01 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年4月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
10	関東-02 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年4月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
11	関東-03 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	筑波大学	筑波大学 薬学部	〒305-8565 茨城県つくば市 筑波大学 薬学部 筑波 筑波大学 電話: 029-853-1111
12	関東-04 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	筑波大学	筑波大学 薬学部	〒305-8565 茨城県つくば市 筑波大学 薬学部 筑波 筑波大学 電話: 029-853-1111
13	関東-05 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
14	関東-06 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
15	関東-07 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年10月(土)・(日)2泊2日	学芸大学	学芸大学 薬学部	〒250-8585 東京都国立市 学芸大学 薬学部 東京 学芸大学 電話: 042-536-1111
16	関東-08 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年11月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
17	関東-09 27年度関東認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年11月(土)・(日)2泊2日	東京大学大学院システム	東京大学大学院システム 東京大学 薬学部 薬学実務実習指導薬剤師養成センター	〒100-8302 東京都千代田区 東京大学 薬学部 東京 東京大学大学院システム 電話: 03-5261-3100
18	中部-01 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年4月(土)・(日)2泊2日	名古屋大学	名古屋大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 名古屋大学 薬学部 名古屋 名古屋大学 電話: 052-789-3111
19	中部-02 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
20	中部-03 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	名古屋大学	名古屋大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 名古屋大学 薬学部 名古屋 名古屋大学 電話: 052-789-3111
21	中部-04 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
22	中部-05 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
23	中部-06 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
24	中部-07 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
25	中部-08 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	愛知大学	愛知大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 愛知大学 薬学部 名古屋 愛知大学 電話: 052-789-3111
26	中部-09 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年10月(土)・(日)2泊2日	大東学院大学	大東学院大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 大東学院大学 薬学部 名古屋 大東学院大学 電話: 052-789-3111
27	中部-10 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年12月(土)・(日)2泊2日	大東学院大学	大東学院大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 大東学院大学 薬学部 名古屋 大東学院大学 電話: 052-789-3111
28	中部-11 27年度中部認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年12月(土)・(日)2泊2日	大東学院大学	大東学院大学 薬学部	〒466-8601 愛知県名古屋市 大東学院大学 薬学部 名古屋 大東学院大学 電話: 052-789-3111
29	中国-01 27年度中国認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	岡山大学	岡山大学 薬学部	〒700-8501 岡山県岡山市 岡山大学 薬学部 岡山 岡山大学 電話: 086-265-1111
30	中国-02 27年度中国認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年8月(土)・(日)2泊2日	岡山大学	岡山大学 薬学部	〒700-8501 岡山県岡山市 岡山大学 薬学部 岡山 岡山大学 電話: 086-265-1111
31	九州-01 27年度九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	新井大学	新井大学 薬学部	〒810-0801 福岡県北九州市 新井大学 薬学部 福岡 新井大学 電話: 093-882-1111
32	九州-02 27年度九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	新井大学	新井大学 薬学部	〒810-0801 福岡県北九州市 新井大学 薬学部 福岡 新井大学 電話: 093-882-1111
33	九州-03 27年度九州認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成29年7月(土)・(日)2泊2日	新井大学	新井大学 薬学部	〒810-0801 福岡県北九州市 新井大学 薬学部 福岡 新井大学 電話: 093-882-1111

別紙9-1. 薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップのモデルプログラム

## (1日コース)におけるスケジュール

薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ(1日コース)

【日時】 平成 年 月 日 ( ) 10:00~18:00 (受付 9:30~)

【会場】 名称(住所)

主催： 病院・薬局実務実習〇〇地区調整機構、〇〇〇〇〇〇〇

共催： 大阪大学大学院薬学研究科「課題解決型高度医療人材養成プログラム」運営委員会

ディレクター：

チーフタスクフォース：

タスクフォース：

会場責任者：

事務局：

【スケジュール】 10:00 開始、18:00 終了(時間調整・可)

10:00~10:10	P 開会式 ディレクター挨拶 プレアンケート	10分
10:10~10:40	P オリエンテーション「改訂モデル・コアカリキュラムと学習成果基盤型教育について」	30分
10:40~10:55	P 「学習成果基盤型教育において求められる学習目標とは」	15分
10:55~12:45	P S G D (昼食込み)	110分
12:45~13:15	P 「パフォーマンスを測る教育評価とは」	30分
13:15~14:35	P S G D	80分
14:35~15:05	P 発表 5分+討議 5分/グループ	30分
15:05~15:20	コーヒーブレイク	15分
15:20~15:50	P 「真に参加型と呼べる学習方略とは」	30分
15:50~17:10	S S G D	80分
17:10~17:35	P 発表 4分+討議 4分/グループ	25分
17:35~17:45	P ポストアンケート・第1日目の評価	10分
17:45~18:00	P チーフタスクフォース挨拶・ディレクター挨拶	15分

別紙9-2. 薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップのモデルプログラム

## (半日コース)におけるスケジュール

薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ (半日コース)

【日時】 平成 年 月 日 ( ) 13:00~18:30 (受付 12:30~)

【会場】 名称 (住所)

主催： 病院・薬局実務実習〇〇地区調整機構、〇〇〇〇〇〇〇

共催： 大阪大学大学院薬学研究科「課題解決型高度医療人材養成プログラム」運営委員会

ディレクター：

チーフタスクフォース：

タスクフォース：

会場責任者：

事務局：

【スケジュール】 13:00 開始、18:30 終了 (時間調整・可)

13:00~13:10	P 開会式 ディレクター挨拶 プレアンケート	10分
13:10~13:35	P オリエンテーション「改訂モデル・コアカリキュラムと学習成果基盤型教育について」	25分
13:35~14:05	P 「学習成果基盤型教育において求められる学習目標とは・パフォーマンスを測る教育評価とは」	30分
14:05~15:25	P S G D	80分
15:25~15:55	P 発表4分+討議5分/グループ	30分
15:55~16:05	コーヒーブレイク	10分
16:05~16:25	P 「真に参加型と呼べる学習方略とは」	20分
16:25~17:25	S S G D	60分
17:25~17:55	P 発表4分+討議5分/グループ	30分
17:55~18:10	P 総合討論	15分
18:10~18:20	P ポストアンケート・第1日目の評価	10分
18:20~18:30	P チーフタスクフォース挨拶・ディレクター挨拶	10分

別紙 10. 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおける配布資料

## 薬学教育者ワークショップ資料

### 資料番号

- 0-1 ワークショップの趣旨
- 0-2 ワークショップのテーマと目標
- 0-3~4 ワークショップとは
- 0-5 印象記作成のお願い
- 0-6~9 ワークショップ報告書の作成について
- 1-1 World Café 資料 (別紙3のスライド部分)
- 2-1 KJ法
- 2-2 コンセンサス形成のアドバイス、グループ・ダイナミックス (集団力学)
- 3-1 学習のプロセス
- 3-2 カリキュラムとは
- 3-3 基本的教育用語
- 3-4~5 カリキュラムの要素
- 3-6 カリキュラム立案の計画図
- 3-7 目標設定の意義
- 3-8 学習目標のもつべき性格 (RUMBA)
- 3-9 目標 資料 (別紙4-1のスライド部分)
- 4-1 評価 資料 (別紙4-2のスライド部分)
- 4-2 value ルーブリック例示
- 5-1 方略 資料 (別紙4-1のスライド部分)
- 5-2 方略追加説明 資料 (別紙4-1のスライド部分：最終ページ)
- 6-1 手法 資料 (別紙5のスライド部分)
- 7-1 二次元展開法
- 7-2 改善に対する抵抗と方策
- 7-3 カリキュラム改革のための行動計画
- 7-4 組織内で問題を発見し解決するプロセス

## ワークショップの趣旨

教育とは「教師が事実であると信じていることを学習者に話し伝えること」と考えられてはいないでしょうか。大学の学部専門課程の先生方のほとんどは、小・中学校の先生のような教職課程をとらずに教壇に立っているのが実状です。実習の指導教員が学生の薬剤についての知識のなさに驚き、「一体学生は授業で何を習ってきたのか」と研究室で嘆けば、講義を担当した先生からは「そんなこと十分話してあるのに、学生は全くしようがない。」と答が返ってきます。知識は伝えてあるのですが、学生が理解したかどうかの評価は、定期の試験に合格したかどうかのみでなされ、学生自身にはフィードバックされていないのです。

このワークショップでは、教育を「学習者の行動（パフォーマンス）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えています。学習者の到達すべき目標（アウトカム）を設定し、教える側全員がこの目標を理解した上で、教育の評価法、方法を具体的に作りあげ、学習者がアウトカムに到達したか、この教育の方法そのものが妥当であるかなどを評価し、より良いカリキュラムを作りあげていく手法を体得することが必要です。そしてそれがこのワークショップの目的なのです。

## テーマと目標

テーマ： カリキュラム・プランニング

アウトカム（学習成果）：

薬学教育の質を高め、望ましい薬学生・薬剤師を育成すること。

学習目標：

薬学教育に高い関心を持ち、薬学実務実習のカリキュラムを立案する。

行動目標（SBOs）：

1. 教育の原理・あり方を説明できる。
2. カリキュラム立案の手順を説明できる。
3. アウトカムに対して具体例なコンピテンシーを作成できる。
4. 教育評価の原則、評価方法の特性を説明できる。
5. 適切な評価方法を作成できる。
6. 教育の方法、媒体の特徴を述べることができる。
7. 効果的な学習方略を立案できる。
8. 立案したカリキュラムを評価できる。
9. 教育改善に対する抵抗の克服手段を説明できる。
10. 教育とその改善に積極的な態度を示す。



## ワークショップ Workshop (WS)

ワークショップ Workshop (WS) では、あらかじめ目標が定められる。その目標を達成するために参加者全員が効果的な討論・作業を行ない、一定の時間内に成果 (Product) を生み出すという手順をとる。

この方法によって、個人レベルで問題解決を行なうのとは比較にならない有効な成果を得ることができる。

ワークショップには課題解決型と研修型とがあるが、両者を兼ねる場合も少なくない。ワークショップは、課題解決法であると同時に、効果的な学習方法のひとつでもある。

### 1. ワークショップの展開

ワークショップは、全体セッションとグループ・セッション (討議・作業) を、交互に繰り返して進行するのが普通である。

全体セッション：

参加者全員が一堂に会して、グループ・セッションでの討議・作業の成果を発表し合い、全員で討議する。

グループ・セッション：

テーマ・課題について、グループごとに討議・作業して成果を生み出す。

全体セッション ⇒ グループ・セッション ⇒ 全体セッション  
⇒ グループ・セッション ⇒ 全体セッション ⇒

ディレクターのもとにタスクフォース、コンサルタントおよび事務局からなるスタッフが参加者に対応する。

### 2. グループの構成

全参加者は数名 (7~8 名のことが多い) ずつのグループに分かれて、グループ・セッションを進める。各グループは、いろいろな背景のメンバーが混在するように構成されることが多い。すなわち、様々な年齢、性別、活動・専門領域や職種の人になるべく混じり合うようにする。そうすることでそれぞれのグループの働きが偏らないことが期待される。

### 3. 参加者の役割

#### ①グループメンバー

各グループ・セッションでは、司会進行係、記録係、発表係の3役を決める。

☆司会進行係：効果的な討議・作業が進むようにセッションをまとめる。

☆記録係：グループ・セッションでの討議・作業の結果を記録し提出する。

☆発表係：グループ・セッションの結果を、全体セッションで発表する。

3役はグループ・セッションごとに交代する。

#### ②タスクフォース（ファシリテータ）

タスクフォースは全体セッションの司会・進行を行ない、グループ・セッション（討議・作業）の導入の説明やまとめを担当する。

全体セッションの司会は、グループメンバーが交代で行なうこともある。

タスクフォースは、グループ・セッションが活発に進む雰囲気作りに配慮し、その進行を見守り、必要に応じて情報を提供したり、討議・作業の方向を修正する責任があるが、強圧的に方向づけることのないように心がける。

グループ・セッション（討議・作業）の成果やその他の記録などの提出物についても、タスクフォースが参加者に説明する。

タスクフォースはグループの数に相当する人数がいれば理想的だが、1～2名のタスクフォースが全グループを支援する場合もある。

資料配布のタイミングの決定と配布はタスクフォースが手分けして行なう。

#### ③コンサルタント

必要に応じて解説したり、相談に応じる。

#### ④ディレクター

ワークショップ全体の進行を掌握する。

#### ⑤事務局

ワークショップの運営・進行をバックアップする。

### 4. ワークショップの期待される効果

- 1) 個人およびグループの行動が、他人または他グループを通じて客観化できる。  
（鏡影現象）
- 2) 課題達成によって、決断力や実行力が涵養できる。
- 3) 自由な討議・作業を通じて、人間関係の重要性について理解を深めることができる。
- 4) グループ活動を通じ、グループ・ダイナミックス（チームワークや相互啓蒙等）の有用性を体験的に理解できる。

### 5. ワークショップ成功の条件

- 1) ワークショップは、全メンバーの積極的な参加があって、はじめて成り立つものである。全員が最初から終了まで参加し、途中で脱落するものがないはなら

ない。

- 2) ワークショップの成功の責任は、参加者全員にある。
- 3) 全メンバーは、互いにResource Personとして働く。
- 4) グループとしての学習と円滑なコミュニケーションが目標を達成するために極めて重要である。
- 5) 参加者はグループ討議・作業をより効果的にするために、建設的で批判的な意見を述べる。
- 6) 最も大切なことは、どんな質問でも無意味ではないと認識することである。

## 印象記作成のお願い

第1日の印象記を600字程度に記し、第2日開始時までにはタスクフォースに提出して下さい。

## ワークショップ報告書の書式および提出方法について

報告書を提出されてワークショップ受講終了となりますので報告書割り当てをご確認のうえ電子媒体にて作成し、提出期限を厳守して下さい。  
書き方は下記の通りでお願いします。

### 1. 報告書の書式.

①使用ソフト：Microsoft word を使用し、ご作成願います。

**EXCEL・PDF** は不可。用紙は縦設定。

②その他：ページレイアウト（ページ設定） は下記の通りでお願いします。

#### 文字数と行数

- ・ 文字数 41
- ・ 字送り 11
- ・ 行数 38

#### ページ設定（余白）

- ・ 上 25
- ・ 下 25
- ・ 左 25

・右 25

ホーム

フォント

・MS明朝

・サイズ 11 ポイント

③ファイル名：以下のような項目および氏名を明記して下さい。

例：概要と感想(第1日目午前) 1A 薬学 太郎

セッション3 2A 薬学 花子

「概要と感想」割り当ての方はA4用紙1枚最後まで

「セッション2・3・4・5・7」割り当ての方はA4用紙2枚最後まで

※ セッション2・4・5・7 担当の方下記の表 (縦設定) をwordで表も含めて2枚で  
作成をお願いします。(デジカメ・携帯撮影掲載禁止) EXCEL不可

セッション 2：島の図  
セッション 4：評価計画表およびループリック  
表

セッション 5：学習方略の表  
セッション 7：二次元展開表







## 2. 提出方法

作成したファイルを電子メールの添付ファイルとしてお送り下さい。

(メールに文章の貼り付けは不可です。)

電子メールで添付、送信できない方は、CD 又は USB に保存してご郵送下さい。

なお、電子メールでご送信いただく際、subject (件名) は

「第〇〇回ワークショップ報告書 〇〇 〇〇〇〇」として下さい。

(〇〇 〇〇〇〇の中はグループと氏名を記入)

## メールアドレス

〇〇〇@〇〇〇〇〇〇

## 3. 提出期限 (厳守)

20〇〇年〇月〇〇日 (〇)

### 【報告書提出後のお願い】

受取メールをお送りしますので必ず確認をお願いします。

確認メールが届いた方 (但し座学も終了している) から日本薬剤師研修センターに申請を行ってください。

詳細は日本薬剤師研修センターのホームページまたは TEL03-3568-8201 で確認して下さい。

### 【調整機構に多い問い合わせ】

- ・ 認定実務実習指導薬剤師の資格が調整機構から発行されると思っている。
- ・ 報告書を提出したら自動的に認定実務実習指導薬剤師が取得できると思っている。
- ・ 修了証の番号が認定番号と思っている。

## 4. 提出先・お問い合わせ

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習〇〇地区調整機構 事務局

〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇 TEL〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

〇

**『第〇〇回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ  
(薬学教育者ワークショップ)in〇〇』の報告書割り当て**

テーマ	P1	氏名	P2	氏名	P3	氏名
概要と感想 (第1日目)	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
概要と感想 (第2日目)	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
概要と感想 (World café)	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
セッション2 薬学教育の問題点 (KJ法)	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
セッション3 カリキュラム・目標	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
セッション4 カリキュラム・評価	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
セッション5 カリキュラム・方略	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
概要と感想 (手法)	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	
セッション7 問題点への対応	1A		2A		3A	
	1B		2B		3B	
	1C		2C		3C	

**締切日:平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇) 厳守**

提出先 : 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習〇〇地区調整機構  
〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇区〇〇町〇-〇-〇 TEL : 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇  
メールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇〇〇

## K J 法 (文殊カード法)

K J 法とは : 川喜田二郎氏の考案による小集団で思考をまとめる方法。

文殊カード : 中川米造氏の考案した3連(ミシン目で切り離し可能)のカード。

人数 : 6~7名(10名)程度。

多人数のワークショップなどでは、上記の人数ずつのグループに分けて、  
グループごとに下記のように意見をまとめ、全体セッションで討議する。

準備するもの :

1. 文殊カード

(B6またはA5の紙をほぼ3等分するミシン目が入ったカードで字が書ければ紙質は問わない。ミシン目で切り離せるのがこのカードの特徴だが、コピー用紙やレポート用紙を3つ折にしてハサミで切ってもよい。)枚数は、1回につき、グループメンバー数 × 2~3枚程度。

2. フェルトペン(マジックインク) : グループメンバー数以上(各色があると便利)

3. 模造紙(全紙大) : 1回につき、1グループ1~2枚

会場設営 : グループが作業机を囲んで討議できる場所であればよい。

やりかた :

1. 各自が文殊カードを1枚ずつ持ち、設定されたテーマについて各自が思いついたことを、カードの最上段に書く。簡潔に、そして分かるように。
2. 2段目・3段目が未記入のカードを隣のメンバーにまわす。
3. まわってきたカードの2段目に各自が思いついたことを書く。この際、1段目の意見を参考にしてもよいし、無視してもよい。
4. 3段目が未記入のカードをさらに隣へまわす。
5. まわってきたカードの3段目に各自が思いついたことを書く。
6. ここで下記の7以下に移行してもよいが、まだ意見が出尽くしていないようなら、各自が2枚目の文殊カードを持って上記の1~5を繰り返してもよい。
7. 書き終わったらカードを切り離す。

8. カードに書かれた問題点を書いた人に確認しつつ、本質が同じカード（これを「志を同じくする」という）を集める。集まったものを「島」と呼び、討議による問題点の共有と整理を行う。
9. まとまったカード群に、相談しながら、それらをもっとも適切に表現できる「名札」をつける。  
どの「島」にも入れられなかった「孤独な」カードも重要である。
10. 「名札」のついた「島」を模造紙の上にそれぞれの相互関係を考慮しながら空間配置し、位置が決まったら貼りつける。この際「孤独な」カードも忘れない。
11. 多少遠くからでも分かるように、フェルトペンを使って説明やイラストをつけて関連図（樹木型や魚型にするのも面白い）に仕上げるとよい。

注 意 : できるだけ全員が討議に参加できるように、司会者の配慮が創造性を高める。

## グループ・ダイナミクス Group Dynamics (集団力学)

### グループ・ダイナミクス：

生活体、特に人間の生活手段に関する行動の法則性を追求する社会科学であり、集団の性質、集団発達の法則、集団と個人の関係、集団とより大きな諸制度との関係などを研究する心理学の一分野である。

グループ・ダイナミクスが明確な研究領域として出発したのは、1930年代末のアメリカ合衆国においてである。Kurt Lewin がグループ・ダイナミクスという用語を大衆化し、その理論と研究に貢献した。

### グループ・ダイナミクス効果の決定因子

- 1) 明確な集団目標を有する集団は、そうでない集団よりもパフォーマンスが高く、集団目標が過去の業績よりも若干高いレベルに設定されたときに、成員は目標達成に対して最も強く動機づけられる。
- 2) 集団目標が、集団活動の背後にある成員のエネルギーをどの程度動員しているか。
  - ◎ 効果的なコミュニケーションがなされたか。
    - ◇グループ決定の正確度は、集団の資源の活用度に相関する。
      - グループメンバーの量（人数）の増大でなく、グループ活動の質、すなわち、メンバー間の相互作用（プロセス）の向上が重要である。
      - ◇グループ決定に対するメンバー個人の所有感の強さは、最終決定に至るプロセスの中でメンバー個人が参画し得た度合いと関連性がある。
  - ◎ 適切なリーダーシップがとられたか（よく聞き、まとめ、少数の意見でも英断をもって取り上げ、他メンバーを説得するよいリーダーが必要である）。

カートライト & ザンダー 「グループ・ダイナミクス I、II」  
三隅二不二、佐々木潔 訳編、誠信書房

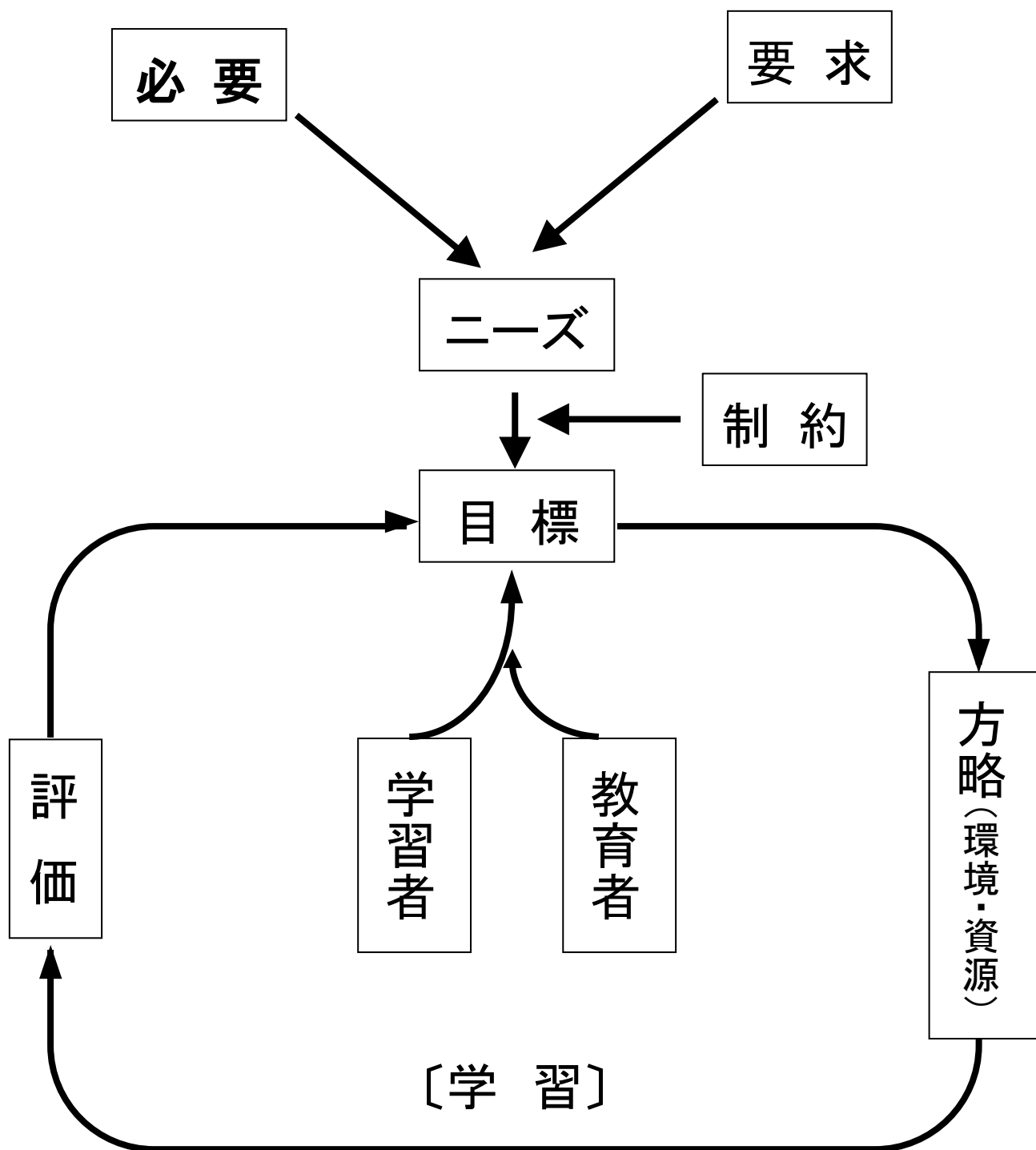
### 【グループの意志決定の際の注意】

グループでの意思の決定に際しては、コンセンサス形成の方法を用いて下さい。すなわち、すべての項目の順位について、グループの全メンバーが同意してはじめて、グループとしての意思決定ができあがると考えます。全員の同意を得ることはもちろん容易ではありませんから、すべての項目が各人の完全な賛同を得ることはできないかも知れません。しかし、グループとしては、できる限り全員が、少なく

ともある程度の合意を示しうる結論を作り上げるように努力して下さい。以下にコンセンサスを得るための若干の指針を記します。

1. 個人的判断を強調することを避け、論理的根拠によって対処する。
2. 結論は原則として全員一致で決定する。
3. 論争を避けるためだけに、安易な妥協をして自分の意見を変更してはいけない。納得のいく理由があればよい。
4. 多数決で決めてはいけない。また、前に譲ったから今度は譲れ、というような取引をしてはいけない。
5. 少数意見は、グループにとって障害ではなく、むしろ他のメンバーの気づかなかった観点を示しているかもしれないから、大切に扱う。

学習のプロセス







## カリキュラム

カリキュラムとは、教育活動計画書である。

カリキュラムによって、学習者はある特定の目標に到達するための学習が可能となる。

カリキュラムは目標、評価、方略の三要素から成り、それぞれの内容は必要に応じて改変されるものである。

### 目 標

教育とは、学習者の行動に価値のある変化をもたらすプロセスである。

学習者は学習によって、より望ましい状態に変化（行動変容）する。

学習者が目指す、より望ましい状態が目標として明示される。

### 評 価

教育活動を効果的に遂行するために、学習者の行動の変化を測定し、測定結果について価値判断を行い、その結果に基づいて意志決定をする。

- ・ 卒業判定、資格認定、進級判定、合否、単位認定、など
- ・ 動機づけ、補充学習、学習態度の改善、学習方法の改善など

### 方 略

目標に到達するために学習者がどのような環境で学ぶかが学習方略としてデザインされる。学習者が積む学習経験の種類（学習方法）とその順次性および必要な資源（人的資源、物的資源、予算）が具体的に示される。



## 基本的教育用語

(ワークショップで頻用)

W S	: <b>Workshop</b> 参加者が意見を出し合い、討論、討議により新しいものを作り出す協同作業。それぞれの人が学びとるグループ学習の一つでもある。
Consultant	: その領域に造詣が深い相談役
T F	: <b>Task Force</b> 語源は軍隊用語で、特殊任務をもった機動部隊。WSなどの世話人。ファシリテータ <b>Facilitator</b> 。
Product	: 参加者によって立案されたカリキュラムなどの成果。
Pl	: <b>Plenary Session</b> 全体討議。
SGD	: <b>Small Group Discussion</b> 小グループ討議。
K J 法	: 川喜田二郎氏考案の、カードによる思考や議論のまとめ方。
OBE	: <b>Outcome-based Education</b> 学習成果基盤型教育。
Performance	: パフォーマンス 人の外的に観察可能な行為・推敲能力。
Outcome	: アウトカム 学習成果。学習者が最終的にできるようになるべきこと。
Competency	: コンピテンシー 高業績者の行動特性。職務や役割における効果的ないしは優れた行動に結果的に結びつく個人特性。
Miller's pyramid	: パフォーマンスのレベルを、知っている( <b>knows</b> )、深く理解する( <b>knows how</b> )、安全に試してみる( <b>show how</b> )、本物のようにできる( <b>does</b> )に分類する。
Rubric	: ルーブリック。パフォーマンスを評価するツール。
L S	: <b>Learning Strategy</b> 学習方略。
Resources	: 学習資源(物的、人的、予算)。
Teaching Media	: 教育媒体。学習者と教育者とのコミュニケーションに必要な情報ならびにそれを伝達するもの。
Role Playing	: ロールプレイ。役割演技。芝居をしながら、その役割の人物の立場、気持ちを理解することなどを目的としたグループ学習の一つ。
S P	: <b>Standardized Patient</b> 標準模擬患者、 <b>Simulated Patient</b> 模擬患者。
Evaluation	: 教育評価。学習者、カリキュラム(目標、方略、評価)教授法、教員など、すべてが評価の対象。

Formative Evaluation	: 形成的評価。学習者、教員へのフィードバックを目的とする評価。 Diagnostic Evaluation 診断的評価ともいう。
Summative Evaluation	: 総括的評価。卒業、資格認定などを目的とする評価。
OSCE	: Objective Structured Clinical Examination オスキー。客観的臨床能力試験。
CBT	: Computer-Based Testing 共用試験。

## カリキュラムの要素

カリキュラム立案に当り重要なことは、学習すべき内容の量や質が学習終了時に期待される成果と関連していなければならない点である。

- ① まず期待される最終的な成果は、通常、アウトカム (outcome) として学習者に明示される。
- ② ついで、観察可能な具体的なパフォーマンス (外的に観察可能な行為・推敲能力) が学習目標と呼ばれ、アウトカムと密接に関連づけられて策定される。学習の成果は何であるか (outcome)、学習者がそのアウトカムに到達するために、学習者はどのようなパフォーマンスを示し (学習目標)、能力を有することを明らかにしていくのかを明らかにして、教員は初めてカリキュラムを組むことができる。
- ③ 学習者が具体的なパフォーマンス (学習目標) を示せない時、どこに問題があるかを明らかにするかをチェックするために行動目標 SBOs (specific behavioral objectives) が活用できる  
 ※改訂モデル・コアカリキュラムでは、行動目標を到達目標と呼んでいる。
- ④ 学習者のアウトカムへの到達度が評価 (Evaluation) される。最終的に、アウトカムに到達した学生にのみ卒業を認める。
- ⑤ 学習者が積む学習経験の種類とその順次性および必要な資源、求められる学習環境が、学習方略 Learning Strategies (LS) と呼ばれる。

### 目標

学習者の最終的なあり方 = 学習成果 (outcome)

目標は、アウトカムと学習目標とによって示される。

アウトカムと学習目標はパフォーマンスで記述される。

☆ 学習成果 outcome

学習の成果を表現したもの = 期待される学習成果

学習の結果

何のために (学習する理由、修得した能力の活用)

どのような能力を修得するかを

包括的に示す。(複雑な概念をもつ動詞で表現する)

→ 理解する 評価する 修得する 身につける など

学習者が主語の文章

知識、技能、態度・習慣の三領域にわたることが望ましい。

## ☆ 学習目標

### ☆ 行動（到達）目標 SBOs : Specific Behavioral Objectives

目標を達成するためにはどんなことができなければならないかを具体的に示す。

（その行動をとることが観察できる動詞で表現する）

→ 列挙する 説明する 示す 測定する 配慮する など

学習者が主語の文章

1つの学習目標には数個～10数個のSBOsが含まれる。

知識、技能、態度・習慣がそれぞれ別のSBOで設定される。

### ☆ 学習者が適切にパフォーマンスを発揮できない時、その原因を解析するためにSBOsをチェックリストとして活用することが可能。

## 評価

評価とは、教育上のある決定をせまられた時、情報を収集し、それらを使いこなすこと。

学習による行動の変化を測定し、測定結果について価値判断を行い、この結果によって意志決定をすること。（その結果に基づいて、学習者や教育プログラムをどうするかを決定する）。

直接測定するのは、

- 1) 学習者に行動目標として要求されるパフォーマンス
- 2) 潜在的に有する能力によって示されるパフォーマンス
- 3) それらの動作の熟練の程度

## 方略

各学習目標に到達するために積む学習経験の種類（学習方法）とその順次性および必要な資源、つまり学習環境。

学習者がどのように学ぶかが具体的に立案され、その学習経験を積むのに必要な資源（人的資源、物的資源、予算）が示される。

学習目標と方略とは、必ずしも1対1には対応しない。1つの方略で複数の学習目標について学習できることもあるし、1つの学習目標のために複数の方略が

必要なこともある。



## 学習成果基盤型教育における

### カリキュラム立案の流れ

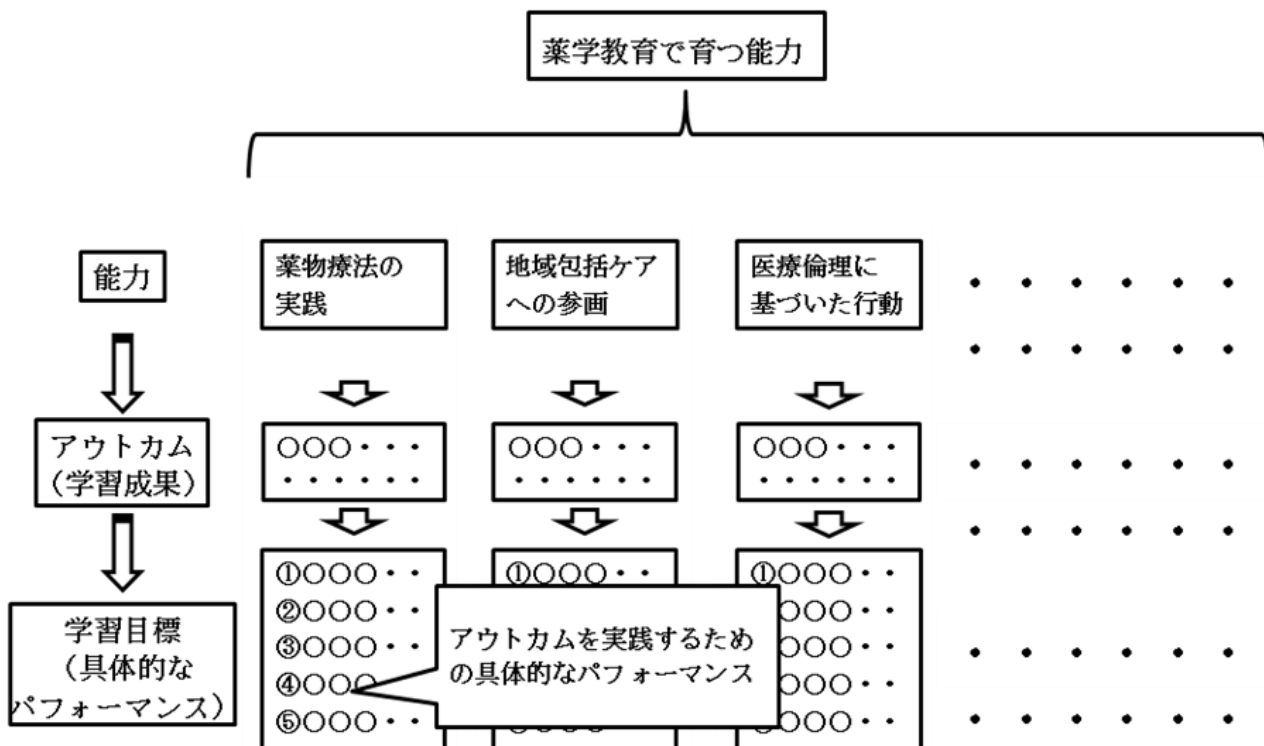
「よい薬剤師とは？」という疑問から始めて  
 教育を終えたときに学生が修得していると期待される「能力」を設定し  
 「アウトカム（学習成果）」を定義する。このアウトカムから  
 「具体的なパフォーマンス＝学習目標」を考える



学生がそのアウトカムに到達したか否かを評価する方法と基準を決める。



学生がパフォーマンスを実践できる学習環境を考える。



## 目標設定の意義

### ー 具体的に目標を設定することの価値 ー

1. 学習者が、これから学ぼうとしていることの目標を理解しやすくなり、学習のガイドとなり、モチベーションを刺激する。
2. 学習者と教員との間で、学習目標や評価についての情報交換が容易となる。
3. 教員が複数の場合、学習目標や進度について、共通の理解が得られやすい。
4. 学習者が、効率的かつ効果的に目標に到達するためには、どのような学習方法を  
を  
選択し、いかなる環境を準備するか、どのような時間配分がよいかなどを計画し  
やすい。
5. 目標を達成したか否かの評価がしやすい。
6. 他大学（国内・国外）との単位の互換や第三者による大学評価の際などにも必要である。

## 学習目標のもつべき性格

### “RUMBA”

1. 学習目標は現実的であること                      **Real**                      **R**
  - 1) 学習目標は学習者がそれに到達したときに、どのような問題を解決できるか、またニーズを満足するかが明らかになっているならば、それは学習者のモチベーションを刺激することができる。
  - 2) 学習目標の設定には、社会や学習者のニーズが反映される必要がある。かつ、それらは前もって学習者に理解されている必要がある。
  - 3) 学習目標は、柔軟性をもち、状況の変化に応じて変更されるべきものである。
  
2. 学習目標は理解可能であること                      **Understandable**                      **U**
  - 1) 学習目標は、到達すべきアウトカムを、それぞれに適したパフォーマンスに基づいて分かりやすく記述されるのがよい。
  - 2) 学習目標は、互いに関連して編成されなければならない。
  
3. 学習目標は測定可能であること                      **Measurable**                      **M**
  - 1) 学習目標が達成されたかどうかを評価するためには、それが測定できるものでなくてはならない。そのためには観察可能なパフォーマンスで述べられていなければならない。
  - 2) 学習目標は学習者が学習目標の達成を示す際のレベルや制約も考慮されていなければならない。
  
4. 学習目標は行動的であること                      **Behavioral**                      **B**
  - 1) 学習目標は学習者のパフォーマンスを表わす用語で具体的に示されている必要がある。項目を列挙するだけでは学習目標にならない。
  
5. 学習目標は達成可能であること                      **Achievable**                      **A**
  - 1) 学習目標は、学習の原理に則り、かつ心理学的に実行可能な用語で述べられるべきである。
  - 2) 学習目標は、その達成のために必要な時間や人的・物的資源などを確認した上で設定されねばならない。
  - 3) 学習目標は、それを達成するのに必要な最低のレベルを示すよう記述されね

ばならない。それは絵にかいた餅であってはならない。

注：上記の1～5の頭文字をとってRUMBAと呼ばれる。

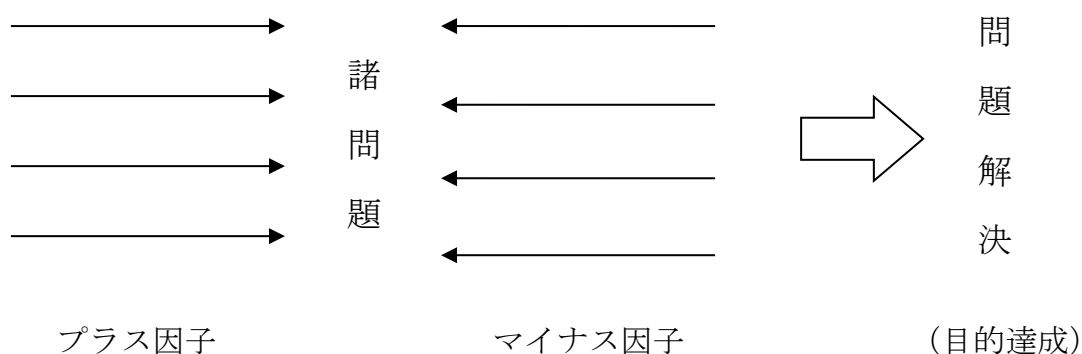
## 二次元展開法

解決計画を立案すべき複数の課題がある時の、優先順位を決定する方法のひとつである。

1. 適当なカードに、1枚に1つずつの課題を書く。課題の数だけカードができる。
2. 模造紙（全紙）に、下図のように横軸を緊急度、縦軸を重要度とする2次元平面を作る。
3. まず1枚のカードに記入された課題が、どの程度重要であるか、また、どの程度緊急を要するか、についてグループメンバーで討議し、平面上の適当と思われるところにカードを置く。
4. 次のカードに記入された課題について、同様の討議を行い、平面上の適当と思われる所に置く。
5. 同様にして、すべてのカードを平面に並べる。最後に、全体を見渡して、全員が納得できる位置にカードを配置する。
6. こうして置かれたカードの中で、平面の一番右上のものが、もっとも優先度が高いことになる。
7. 普通はもっとも優先順位の高いものについて、解決計画を検討するのであるが、解決が困難な場合には、次の容易度を考慮して、取り組む順番が変わることもある。
  - ① 解決計画の立案が極めて困難な場合、あるいは、解決の実践が徒労に終わる可能性が高い場合には、せっかく取り組んでも、結局は解決のメドが立たず、やる気をなくすこともある。
  - ② 優先順位の高いものが課題解決の本命ではあるが、取り組み易い別の課題を解決してから本命にとりかかるほうが、結局は解決が早いということもある。

## 改善に対する抵抗と方策

改善を実行するとき起こる抵抗を克服するには多くの方法が考えられるが、一つの有力な方策としてForce-Field-Analysis（力野分析）がある。



1. 抵抗に関する諸問題を解決して目的を達成しようとする時に、その解決（大きい矢印の方向）を促進する“プラス”因子と、それを阻み押し返そうとする“マイナス”因子を分析して、リストアップする。  
その時点で考えられるできるだけ多くの因子をあげる。
2. プラス因子を押し進めるか、マイナス因子を弱めるかを考える。
  - (1) どの因子がもっともコントロールしやすいか。
  - (2) どの因子が時間、努力、資源の上でもっとも効率的であるか。
  - (3) どの因子が所属する組織（機関）において、制度やスタイルにもっとも合っているか。
 の諸点を頭に入れて優先順位を決める。

※ 一般的にいえることは

“プラス因子を強めるよりもマイナス因子を弱めることを、優先的に考えることが望ましい”

プラス因子を強めることは、しばしばよけいな抵抗を新たに生じることになる。

3. すべてのステップにおいて次のことを決めることが必要である。

1. What will you do?
2. How will you do it?
3. When will you do it?
4. Who will do it with you?
5. Where will you do it?
6. With what will it be done?

## カリキュラム改革のための行動計画

1. 改革の必要性を認識する。
2. 改革のムードを刺激する。
3. 問題点、学習者の情報などを整理する。
4. 異なった観点を孤立させる。
5. 関心を有する人々で方略を練る。  
例えば、問題点を解析し、力野分析を行うために、該当する委員会のメンバーも含む人々をセミナーやワークショップに集める。
6. 必要なカリキュラム改変を計画する。
7. 計画を実行する（審査委員会必要）。
8. 結果を審査する。
9. 改変過程に機略を用い、改変を合法化することに留意する。



## 組織内で問題を発見し解決するプロセス

### 第1段階：問題の意識化と共有化

1. 問題の発見
2. 職場集団の不満や、もやもやのはきだし
3. 職場集団が問題に気づき、共有される

### 第2段階：問題の明確化と変革目標の設定

1. 問題の明確化
2. 変革目標をはっきりさせる
3. どうやって変革するのかプログラムを考える

### 第3段階：学習と解決策づくり

1. 方法、手段を学習しつつ、解決策をさぐる
2. 解決策をつくりあげる

### 第4段階：実施し定着をはかる

1. 役割分担の決定
2. 実施
3. 定着化

